

議事録

項目	第4回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 アクティビティ・マネジメント部会
協議日時	平成30年11月21日(水) 13:30~15:30
協議場所	江藤ボートハウス(屋形船内)
協議者 (敬称略)	国立大学法人 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授 星野 裕司(部会長) 公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司 公益財団法人 地方経済総合研究所 主任研究員 藤田 英介 キリン株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 (熊本復興支援担当) 古賀 朗 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一(欠席) 協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴 江津湖貸舟協同組合 監事 宮本 龍一 一般社団法人 熊本市造園建設業協会 理事 松本 秀和 一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 熊本市総合体育館・青年会館 館長 田口 八司郎(欠席) 水前寺活性化プロジェクトチーム 事務局 楠本 英雄 幹事 庁内関係課、事務局
<議題>	<p>(1) 前回会議の振り返り・今回の検討事項</p> <p>(2) 基本方針について</p> <p>(3) 具体的施策事業の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業カルテ ・カルテ作成スケジュール <p>(4) その他</p> <p>【議事録】</p> <p>●はい、よろしく申し上げます。今ご紹介されたとおりなのでこの議題に沿っていきたいと思います。それでは議題(1)からよろしく申し上げます。(星野部会長)</p> <p>～議題(1) 前回会議の振り返り・今回の検討事項、議題(2) 基本方針について 説明後～</p> <p>●本来、計画の骨子までいきたかったですけれども、それよりも具体的施策を皆で共有し、充実するということを重視したいと、その骨組みみたいなのが、いずれ骨子になっていくだろうという形ですね。資料3は協議会で共有したことの復習ということで、ここまでで何かご意見ありますか。いいですかね。たぶん資料4とか5で議論する中で、資料3基本方針のところの丸は少し増やした方がいいとかあるかもしれませんが、大きくはいいかなと思います。では一番今回大事な議題(3) 具体的施策事業の検討というところで、説明をお願いします。(星野部会長)</p>

～議題（３）具体的施策事業の検討 説明後～

- はい、ありがとうございます。説明頂いたので、ご意見をここからたくさん頂きたいんですけど、意見のパターンとしては、もっとこんなことあるよ、このカルテというか項目が増えるような意見、それからあるいは、今ご提案されている中でもっとこうしたらいいよとか、これと絡むんじゃない？というようなご提案、カルテをもっと良くするようなご意見、後は全体の整理の仕方とか、その３つぐらいの意見があると思いますけれども。まずはご自由にご意見を頂けたらいいなと思います。いかがですかね。パッと思いついたことでも構いませんので。（星野部会長）
- 今のアイデアの中で、バーベキューの話があってですね、こういうところでバーベキューみたいなことをやれたらなと私も思いますけど。ただやっぱり一番関係してくるのは、ゴミの問題とか環境の問題というのが結構あると思います。私どもの震災後のプロジェクトの中で、阿蘇の草原の中でバーベキューをやるというプログラムがあるんですけども。これはなぜかという、阿蘇の草原の再生というのが一つの大きな課題であるということと、あとは赤牛のブランド化というのがあります。阿蘇の草原の中でそういう形でバーベキューをやりたいというのはあったんだけども実際実現できない。今回、赤牛の放牧が少なくなっているということもあって、ある特定の牧野の中で、牧野の組合様に許可を得た形で特定の場所に特定の時期だけやるということが可能になっている。来年のデスティネーションキャンペーンの中にも阿蘇の観光コンテンツ企画として導入されています。ただ、バーベキューは焼肉とは違うという意味合いで、日本ではなくアメリカでやっているバーベキューの方式、だから食材を持ち込むのではなくて、あくまでもおもてなしなんです。ですから、全部そこに肉とか野菜とか用意してあって、前菜から最後まで用意してある。そこにお客様を呼んで牧野の中でバーベキューをやる、その代り主催者側はやった側はごみ一つ残さない、逆にむしろきれいにしていきたいと思います形も決め事をやっている、ひとつそういう事例があります。（古賀委員）
- なるほど、ありがとうございます。①－１－１のバリエーションとしてはそういうのもあるだろうと。（星野部会長）
- 焼肉にしちゃうとかなり意見がある。（古賀委員）
- それはだから環境の方々と議論する時とかにも一つのアイデアになりますよね。（星野部会長）
- ご参考までに。（古賀委員）
- ありがとうございます。その他どうですか。どんどん思いついたことを言って下さい。（星野部会長）

- これにはまだ多分入っていないと思うんですけども、江津湖にはどんな生物が棲んでいるとか、どんな鳥が飛来するとか、植物がいるとか、展示室とか、歴史で見るならば歴史館みたいな、両方一緒に見れた方が一番良いのでしょうかけれども、そういった勉強の場も必要じゃないかと思えます。(松本委員)
- そうですね。私のイメージだと、資料3の環境の方に基本方針4にそんな場をつくりましょようみたいなのが、入っていますかね？(星野部会長)
- 環境部会の方で、松本さんもおっしゃられたようにビジターセンターの設置ということで、自然環境を学べる空間と歴史文化も併せて。(事務局)
- こちらでは謳わないということですか？(松本委員)
- 最終的には統合されるので、こっちからもそういう意見が出たということで。拠点、例えばそれは後半の運営手法と担い手とか、あるいはガイドの実施とかも、そんな教育する場があるのかとか、ガイドの詰め所があるのかとか、どこに行けばガイドを頼めるのかということで、拠点って多分必要になってくると思うんですよね。(星野部会長)
- 観点について、一日で上江津から下江津まで見て周ろうという考え方なのか、動物園来客者には中江津までおりてもらえばいいのか、上江津なら上江津だけで1日分は遊んでもらおうとか、そういう考え方もありだと思えますよね。全部江津湖を自転車で行ったとしても相当な時間と体力がいるんですよ。行ける人は行っていいんですけども、上江津なら上江津で一日分、動植物園と中江津で一日分、下江津で一日分という考え方もありなのかなというふうには思いますけれども。(松本委員)
- 確かに結構大事な話で。つまり、繰り返し来れるとか来てもらうための工夫がどこかに入っていた方が良くもしいないですね。同じ場所じゃなくて、順線りにとか、季節を変えてとか。(星野部会長)
- 上江津と下江津では江津湖の顔が全然違いますからね。(松本委員)
- そういうツーリズム的な文化、環境だとか。この屋形船も一つのアクティビティの中に組込んでいくとすごく良いですよ。(事務局)
- ツーリズムという発想。上手く一個立てるか、上手く盛り込むか分からないけれども、確かに大事な視点だと思います。
他、いかがですか。(星野部会長)
- 財政の面ですけれども、駐車場の有料化は考えられるのでしょうか。(葉山委員)

- カルテを見ると有料化みたいなことはちょっと書いてあったりもしましたけど。(星野部会長)
- 使う立場で言いますと、けっこう来ているんですよ。こちらの駐車場、よく停めているんですけど、朝できればもう少し早く開けて欲しいというのがあるんですが。2～3時間居たりするじゃないですか。タダでしょう？タダということは、そんなにここに停める必要がない人も来て、ずっとスマホ見ていると、あるんですよ。だからエネルギーレベルが低い感じの場所になりやすいんですよ、タダの駐車場というのは。営業の途中で昼寝する人もいらっしゃるし、例えば江藤ポートさんとこなんか有料にされてもなんら問題ないでしょう？もし市有地であればあるいは公園としてもそうであるならば、一つの財源的にはとても良いことじゃないかなと。その方がある程度セレクトされて、保全の方向には向かうんじゃないのかな。どなたでも使用していいということは、当然間口的には非常に大事なことなんですけれども。ちょっとそれを思ったんですね。(葉山委員)
- 不満を持たれているポイントでもあるし、ある種、お金を稼げる場所でもあるので、トータルで。(星野部会長)
- 最終的には財源の問題になってくると思うので。(葉山委員)
- 公園の維持管理経費はかかりますから、そういうことも含めて、その辺市民のご意見もあるでしょうし、①-7-2に載せてはいるんですけど、今後の検討事項として、そこだけトーンを落として整理しています。(事務局)
- それができると一本線が入って、より積極的な意味合いが、駐車場代を払ったからどうこうではないんですけども、管理をしていくという最初のポイントに到達するような気がしたんですよ。自分だったら払うなど、300円くらい払ってもいいかなと思います。(葉山委員)
- 料金を掛けることによって、料金抵抗で利用者が減るということを懸念する部分ではあるんですけど、行政側としては。確かに今、動植物園が土日祝日のみ駐車場料金200円をとっているんです。それはシルバーさんが回収しているんですけど、それでいくと人件費もかかるわけですよ。(事務局)
- お金とる方が金かかるということですね。(星野部会長)
- 今はやってもしょうがないでしょうね。(葉山委員)
- ただシステムを、機械とかを入れないと多分いけないと思うんですよ。そのこのイニシャルに対しての部分で、いくらまでだったら市民の方のご賛同が得られるのか、なかなか悩ましいところでした。(事務局)

- だから、局所的な環境税をそこで取っているという観点です。どっちかという、それで何か保全するためのファウンデーションをつくるとかというふうな事はある程度いけるかなとご理解いただきたい。ただ単に100円取っているのではなくて、釣りの方も実はナチュラルストなんだと思うんですね。釣り人口は趣味として、日本で一番多い。次に何番目かにゴルフとかかくなるわけけれども、もう少し意識を上げていくためには、釣り堀ではないけど、おそらく車で来られたりするんで、そういった意味で環境を大事にしましょうという意味の、言ってみればこれを保全するためのファウンデーションを皆で作りましょうよということです。車で来た以上、何かをしに来る訳なので。(葉山委員)
- お金払ってでも来たいと思えるような公園にならないといけないですね。(江藤委員)
- そうなんです。もっと自己評価を上げていかなくてはいけない。駐車料金が高くなったから、俺はもう行かないという人は無視、というのは問題あるんですけど、公園だから。(葉山委員)
- 駐車場の有料化問題はいろいろハードルがあるでしょうけど。他はどうですか。(星野部会長)
- 回遊性の向上という部分の、船ですよ。これを観光面の方に取り入れるような形で、できれば神水あたりまで上って行くとか、そういうふうに考えてもらえれば観光としてありがたい。(楠本委員)
- ずいぶん上の方まで行ってくるとありがたいということですね。(星野部会長)
- 庭園とかもありますし、歩いて船に乗る、船に乗って残り歩いて帰るといふそういうのができればいいのかなと思います。(楠本委員)
- 船が行けるのが江藤ポートさんのちょっと先くらいまででしょう。(松本委員)
- さっきも江藤さんと話したんですけども、どうしても水深ですよ。(楠本委員)
- 本当は砂取のところが、舟が来ていたというのが歴史的に大事なわけですからね。(星野部会長)
- あそこを歩いてもらっても探索的には面白いんですね。(松本委員)
- 今のご提案が結構大事だと思うのが、何か一個船に乗るだけで終わるのではなく、歩いて、乗って、歩いてとか、そういう組み合わせが生まれることが結構大事ですよ。そこら辺を入れて欲しいなと思います。あと回遊性のところで、園路などハードの整備と、船やら自転車やらそういうモビリティを貸し出してというソフトの施策とは分けた方が良くと思います。船も含めたモビリティの方は新しいアイデアをどんどん入れていったり、拡張性の高い話になる。ハ

ードはこつこつやるしかない。それは分けてほしい。

はい、どうですか、他には皆さん。(星野部会長)

- 個人個人が行動で、例えば魚を放す人もいれば魚を処理してそれぞれあるんですが、そういうものを例えばここで処理して下さいとか、ここでこういうことができますよとかを整理した方が良いのかなと思います。釣りはそれぞれ個人で釣れる所を知っているの、見ていて危ない光景とかあるんですね。処理する所でゴミが散らかっていたりとか。(藤田委員)
- 処理するというのは外来魚ですか。在来魚だったら大変な問題になります。(松本委員)
- 外来魚です。そういうのを処理する場所を1箇所にとめるとか。そういった整理の仕方もあるのかなと。実際釣りをしないと分からないですけども。(藤田委員)
- 1箇所といっても、下江津で釣ったものを上江津まで持ってくる人はいないので、最低5、6箇所は集める場所が必要。今、環境共生課さんが、そういう回収ボックスとかいけすみたいなものを置いていますので。(松本委員)
- その場所が分かりづらいとかという意見が出ていますよね。回収ボックスはどこですか？(星野部会長)
- これ全部パンフレットとかを配って、新しい人はいるかもしれないですけど、従来、外来魚を釣っている方はほとんど知っています。あとは口伝で伝わっていています。場所を変えていませんので。(松本委員)
- ボリュームとしては釣り人というのはすごく一定層いるから、その人たちを上手くこういう議論に巻き込む何か施策があればいい。(星野部会長)
- 釣り関係の方は環境部会に入っていないのですか？(葉山委員)
- 環境部会に釣りの方はおられないんですけど、外来魚対策で釣った魚を周辺のレストランで食すとか、そういった話は出ています。(事務局)
- 琵琶湖は、実際やってますもんね。(松本委員)
- 専門家の方が入っているわけではありません。(事務局)
- ブラックバスは学校給食に出ます。(松本委員)
- ブラックバスはスズキの仲間ですよ。(星野部会長)

- そうですね。それに、ティラピアはイズミダイ、鯛です。(松本委員)
- なるほど。パットとは浮かばないけれども釣りの方のマナーは当然として、積極的に巻き込む施策を宿題に皆さんしておきましょう。他どうですか。何か、思いついたことでも。思いついたとこで、見ていて写真を撮られる方が多いじゃないですか。例えば、写真教室とか、その整理もあるんですけど、最終的にはこういう施策が絡んでいくといいなと思っていて。この目的の為にこの施策とかじゃなくて、一個やると二つ三つの効果があるとか。例えば自然体験とその情報の共有発信を絡めた写真教室、だから自然観察兼インスタなんかとか、自然写真の撮り方と発信とかを勉強つつ江津湖を発信してもらおうとか、そういうのもあってもいいかなと思います。(星野部会長)
- この間、江津湖でフォトコンテスト、インスタと自然の部門をやって、500名くらい参加されました。(松本委員)
- そういうのはプロが教えてあげたりするんでしょうか。(星野部会長)
- いえ、もうプロより上手な方ばかりでした。自分達でされています。すごい写真でした。(松本委員)
- 教える必要がないんだ。そういうのが定期的にやれると良いなと思います。そういう意味ではバーベキューの社会実験はしたとありましたよね？実際やってみてどうでした？(星野部会長)
- アンケートを行ったんですよ。参加された方は皆さん賛成ということであったんですけど、近隣住民の方に対しても行ったら、結構、止めてくれというお話があったりしました。(東部土木センター河川公園整備課)
- この施策でした時は民家から離れた場所でやったのでその時の苦情等はなかったんですよ。(松本委員)
- これに対してはなかったけれど、一般論としてはということですね。(星野部会長)
- 行った場所としては住民とは離してやったんですよ。離れたところ、沿線沿いの臭気、匂いとかその時は影響はなかったかなと感じました。(東部土木センター河川公園整備課)
- やっぱり、好評でしたか？(星野部会長)
- やった方には大好評でした。(松本委員)

- 40名参加は結果ですか。(星野部会長)
- 40名だけ募集して満杯でした。この時は手ぶらで来てもらったのかな?(松本委員)
- スマートバーベキューという協会さんの勉強ということでやりました。(東部土木センター河川公園整備課)
- おもてなし系の話でしょうか、麒麟さんと同じような。これは大成功だったということで。料金が気持ちちょっと高いかなという気もしますが、そうでもないですかね。(星野部会長)
- バーベキューのセットも、普通のドラム缶などではなく、もの凄く良いもので。(事務局)
- 高いという意見は無かったですね。(東部土木センター河川公園整備課)
- 体験したらそうなんでしょうね。私が家族全員で参加したらいくらだろうかなと考えます。(星野部会長)
- このくらい、とっての方がいいですよ。(葉山委員)
- ほんとはそうなんですよね。(星野部会長)
- 食材から何から全部準備してくれる教室だったそうです。(事務局)
- 全部自分でやるのではないでしょう?セッティングとかもどなたかされるんでしょう?(葉山委員)
- セッティングとかも、その専門教室の方がですよ。(事務局)
- 焼くだけ自分たちでやるのですか?(星野部会長)
- 焼き方までそこで教えてくれる。(東部土木センター河川公園整備課)
- 熊本にバーベキュー協会というのがあるんです。(事務局)
- バーベキューインストラクターという免許が取れるらしいですよ。(江藤委員)
- 世界の基準でやっているので、日本のバーベキュー協会がアレンジしているわけです。ちゃんと免許がいるんですよ。(古賀委員)

- 新しい部分と今やられている部分もありますから、その連携が重要になってくると思います。
(事務局)
- 懸念材料は、ここでバーベキューしていいよとなった時、本当は時間制じゃないですか、若者なんかは夜も来るみたいな気がするんですよ。(松本委員)
- それは来るでしょうね。(葉山委員)
- そこで夜中の警備が発生すると費用的なものがかかってくる。(松本委員)
- 正直、している方がいるようですね。夜、店を閉めた後に何かを担いで持って行っているなど。公園の橋をわたってらっしゃるんですよ。バーベキューセットを持って、どこですのかなと思って、こそっとしている人がいるんじゃないかなと思います。(江藤委員)
- やはり禁止するよりもちゃんと許可して大ぴらにできるところを作った方が、そういうのも抑えやすいと思いますけどね。(星野部会長)
- 場所と時間を限定してね。(葉山委員)
- 花火もよくありますもんね。(江藤委員)
- 最終的にはこういう話がマナーにフィードバックされるようなことも大事だということですよ。どうですか、他は。逆に言うと事務局としてはこんな議論で良いの？もっとこうして、もっと増やしてとか。(星野部会長)
- 来週水曜日に協議会の親会をさせていただく時のイメージとしては、このカルテをこのまま出すというイメージは当然ないのですが、これが3つ分かれていますけれども、これを4分割くらいにして、A3の施策資料に6つくらいの施策を載せて、今日は部会でご議論するものですが、協議会には協議会にしか参加されない委員の方もいらっしゃいますので。(事務局)
- エッセンスみたいな紹介だけです。それはそれで良いと思います。(星野部会長)
- 健康とかどうですか。(事務局)
- 健康は2つに分けたら2つありますよね。(星野部会長)
- マニフェストでポイント制ということを書いてあったし。今日の新聞にも載っていたけど、思ったのは、①-2-1でこの部会の議論で出て大事だと思ったのは、色んなスポーツがミックスできるのがミソだからというのがあったじゃないですか。あれをもう少し強く出して欲しい

なと思った。これとこれとこれがセットでできるというのが、江津湖ならではかなと。お城とかでは無理なことをもう少し出して欲しいなと思いました。あと部会長として気になるのは、実は大事な紫、緑が少ないなという、資料4のことです。ちょっと細かい話をすると、結局、外の資本が来てというのではなくて地元の資本というか、ここだけにしかないお店にならないと意味が無いなと思っています。つまり人を育てるとか、そういう話と繋がらないと本当はダメだと思うんですね。(星野部会長)

- 東部まちづくりセンターの内部で話をしたんですが、江津湖のそばだからお店を出している人というのは下江津湖にもいますので、あの方達の話が全然聞けていないよねということになったんです。その辺から話を聞いていくというのはすごく必要なと思うのと、あの辺で頑張っている人達にもうちょっと利があるような展開になっていくべきじゃないかなという話を出したんですけれども。(東部まちづくりセンター)
- それはそうだと思います。例えば②-1-1のPark-PFI制度も単に行政・民間ではなく、周辺住民とか、周辺の商店街とかそこら辺とWinWinにならないといけないよねというところは大事ですよ。(星野部会長)
- 例えばドッグランもちょっと思ったのは、ドッグランで稼いでいる人たちいるじゃないですか。私もたまに犬を連れて行きますけど、江津湖で安くやられたらしゃれにならないなと思ったりはしましたけど。実はそこら辺のことも考えないといけないですよ。(星野部会長)
- やるにしても社会実験でやったりとか、いろいろな形でやらないといけないですよ。(松本委員)
- そんなことを言っていたらきりが無いから難しいんですけど。このカルテ、そういう意味ですごくいいなと思っているのは、全部が全部ではないですけど、公園が良くなるだけではなくて、その他が連携して、この施策はこういう波及効果がありますよ、まで絵にしようとしていますよね。その姿勢はすごく良いなと思って。それはやっぱり今の話もそうでしょうけど。(星野部会長)
- 前回の14日に私がお話ししたことを、資料4の方にマーケティングのブランド化ということを入れて頂いているのですが、具体的にどうするかをメンバーで決めていただいて結構ですけども、ここをどうするかという事務局の方で何かありますか。この前私が言ったのは、ターゲットとか年齢層とか家族とか企業ごとに「こういうのができるよ」ということを入れていたらどうかという話をしたんですけども、それに対して、1週間経たれてお考えとかがもしあれば、お聞かせ頂けないかなと。これを入れるのか入れないのかも含めて、今見た感じでは入れてないのかなという印象を受けるんですけども。(藤田委員)
- マーケティングによるブランド化というのが、①なのか②なのかあるのかもしれないですけど

ども、キリンの古賀さんの方から以前からずっと頂いているご意見でして、行政が一番不得意なところでもあるのですが、ぜひやっていきたいなというふうに思っています。それが周辺店舗での、江津湖に関する、水に関する頂いたアイデアとして、水を強調した料理の提供だとか、水に限ってを、どんどんアピールしていくというような、そういったような手法は必要だと思っています。すみません、書ききれていないんですけど、思いはあります。(事務局)

- 私も違和感があったんですけど。③-3とかというのが、カルテの中身はふわっとしているんですけど、いろんな利用者の言葉とかをフィードバックさせていく仕組みを③-3で充実させようと提案されているんですけど、その並びで効果的な事業展開の一施策として位置付けておくのは駄目ですか。(星野部会長)
- それでも良いと思います。(藤田委員)
- 言葉だけ書いてやらないというが一番嫌ですし、でもここにどこどこ書けるほど今やれるのかと言うと。(星野部会長)
- 今の段階はブランド化にいくための価値の整理をしていくという段階だと思います。最終的に絞り込みながらマーケティングの方に持っていければ一番良いのかもしれない。まだここに書くのは、実際にやっていないのではないかとと言われる可能性はありますよね。(古賀委員)
- 大事な視点なのでふわっとやらずに、効果的な事業展開の一施策として位置付けるとかはどうですか。(星野部会長)
- 計画を立てる前にやるのか、計画を立てた後にやるのか、ということで方向性も変わってくると思うんですよね。計画の中でこういうやり方でマーケティングを進めていって、計画をバージョンアップしていくという一つの方法もありだと思っています。マーケティングと言う言葉は広いので、一回整理した方が良かったかと思いました。(藤田委員)
- 適切な公園経営のところにはマーケティングのブランド化が来て、その手法が水による発信とか何とかはあるかもしれません。(事務局)
- 2か3かな、下にちゃんとたててやりましょう。最後大丈夫ですか。いいですか。また整理されたものが今度協議会にあがって、そこでの議論を踏まえて部会にも返ってくるという形になってきます。ただ議事録として残してほしいのは、できたら環境部会と連携できる施策もあるし、「共通」の施策、「ほぼ共通」「連携」、「敵対」もあると思います。それらを突き合わせた関係みたいなものは、実は協議会レベルではざっと整理できると宿題も貰いやすいなと思います。単に横並びにずらっと並ぶのではなくて、と思いました。第4回アクティビティ・マネジメント部会をこれで終わりにしたいと思います。(星野部会長)

以上